

アキラNEWS

仕事に少し関係のあることから、まったく関係のないことまであなたにお届けします

<今月のトピック>

- ◆社長のひと一言
- ◆土曜日営業・休業案内
- ◆ゴティバのメッセージ
- ◆バレンタインデーの思い出は？



社長のひと一言

「無私の志」

「殿、利息でござる」。先日、久しぶりに観たDVDのタイトル。家内が俳優の阿部サダヲさんが好きなので、その作品をよくみます。阿部さんが主演だったので、てっきりコミカルなものだと期待していたのですが、内容は非常にシリアスで驚きました。(DVDのパッケージでは判断できない!) 「無私の志」が一つのテーマで、「無私」とは自分のためではなく、世のため人のため、という思いです。

江戸時代の仙台藩の吉岡宿という宿場の物語。穀田屋十三郎と遠藤甚内という二人の兄弟を中心にした話。江戸時代の社会の矛盾に対してとてつもない広い視点から物事を考え、世の中には他人事は無い、みんな幸せになれるということを実現させた実話です。

この物語の原作『無私の日本人』を書いた磯田道史さんは、地元吉岡の元町議の吉田勝吉さんが生涯をかけて集めた「国恩記覚」という史料集をもとに完成させたそうです。当時、吉田さんは磯田さんのほかの作品「武士の家計簿」を観て、自分達の町にも立派な人達の『無私の志』のおかげで江戸時代を通じて人口も減らず、今に至っているこの話を後世に伝えて欲しいと手紙で頼んだそうです。

しかし、磯田さんが吉田さんに会おうとした矢先に大震災が起きました。落ち着いてから会いに行くかと吉田さんは重い病にかかっていて会うことができなかつたそうです。そして、その時に渡されたのが前述の資料「国恩記覚」でした。

磯田さんが『無私の日本人』を書きあげた頃、吉田さんは亡くなりました。結局、二人は最後まで会うことができなかったそうです。『無私の日本人』は吉田さんの「無私の志」のバトンを繋げる、そして今のままではいけなくと憂う一人の日本人として自然と書き上げた作品です。

「無私の志」というものは私たち日本人が共通して持っている気持ちで、日本人の遺伝子に組み込まれているのではないかと、そんな熱い思いを奮い起こさせてくれる作品です。お時間があればぜひ御覧になってください。



山本 利太郎
(としたりょう)

土曜日営業・休業案内

- 2 / 24 (土) . . . **完全休業** (第4土曜日)
- 3 / 3 (土) . . . **完全休業** (社内行事)
- 3 / 10 (土) . . . **AMお引取りのみ**
- 3 / 17 (土) . . . **AMお引取りのみ**
- 3 / 24 (土) . . . **完全休業** (第4土曜日)

- ・第1、第2土曜日は半日お引取り
 - ・第3土曜日は通常営業日です
 - ・第4、第5土曜日は完全休業
- (その月によって例外もあります)

ゴディバのメッセージ

こんにちは。広告研究家の、原です。広告やチラシを見ながら日々研究してます。実は広告って科学なんですね。だから勉強すると面白いです。

広告にも読み手を引き付ける色々な要素があります。その一つが「共感」。その広告を見たときに「そう、そう!」とか「わかってるわ〜」なんて思われる広告がそれです。

先日、日経新聞に、研究家の私のハートを鷲づかみにした一面広告が載ってました。

「日本は、義理チョコをやめよう。」

どんな会社の広告だと思いますか?ゴディバですよ!あのチョコレートのゴディバ。チョコレートのメーカーが義理チョコをやめようっていうメッセージを出したんです。

ゴディバは知っているんです。世の女性たちが義理チョコ文化に嫌気がさしていることを。そして、チョコレートに愛の精神を込めるゴディバは、女性にとっての大切なバレンタインデーに義理チョコのことを考えて嫌な気持ちになって欲しくないんですね。

「ゴディバわかってるわ〜」という女性の声が聞こえてきそうです。

さて、私たちも「アキラわかってるわ〜」と共感してもらえるようにがんばっていかねば、と思ったバレンタインデーの前々日でした。



原 良



ゴディバが掲載した日本経済新聞の一面広告。全国版朝刊のモノクロで定価2千万円くらいだそうです。カラーだと一体いくらなんだろうかね…

バレンタインデーの思い出は?



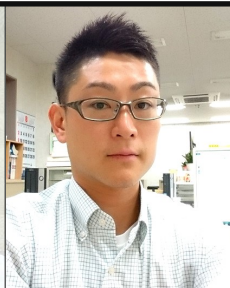
新田 陽一

中学時代、チョコが机の上においてあったが、フタをあけると友達にほとんど食べられていた…



福井 健太郎

友達に習って、手作りのチョコレートケーキを嫁に作ってあげた。(日頃の感謝を込めて)



原 良

手作りが何となく苦手な私は、妹からもらった手作りチョコをなんだかんだで食べずに腐らせたことがある。



吉田 英喜

昔は手作りチョコをくれた嫁が…、今では「何かのついでに自分で買ってきて」と…



受川 朋就

実は小学校のときクラスの女子全員からチョコレートもらったことがある!



北村 真斗

今年のバレンタインデーにチョコレートを娘二人(と嫁)が作ってくれて一緒に食べたことです。

「アキラNEWS」のご意見・ご感想を頂けると励みになります。

株式会社アキラ電機

金沢市示野中町2丁目100番地

TEL (076) 223-3541 FAX (076) 223-3932

hara@osakadenki.co.jp (担当:原)

